

吹奏楽部

「仲間の大切さ」

部長 松井 渚

私は吹奏楽部を通して、仲間の大切さを学びました。一人では吹奏は成り立ちません。互いを思いやり、部員全員が同じ目標に向かって日々練習することが大切です。部員同士意見がぶつかることもありましたが、その度に話し合いをし、自分たちで目標を立て、それに向かって努力して乗り越えてきました。今年のコンクールでは、今までお世話になった方々への感謝を忘れずに、仲間と共に最高の演奏ができるようこれからも日々精進していきたいです。

母より

部長という大役を任せられ毎日、色々なことに悩みながら少しずつ自覚が芽生えてきたように思います。まわりで支えてくれた先生方、仲間や後輩達に感謝しながら残りの活動期間を精一杯悔いの残らないように過ごしていけるといいですね。頑張ってください。応援しています。



家庭部

「協力すること」

部長 前澤 里沙

私が部活動を通して学んだことはたくさんあります。その中でも一番大切だと思ったことは、協力することです。家庭部ではもちろん個人製作もありますが、調理実習やブロック大会の応援旗、文化祭での作品など部員全員で協力する必要があると思います。一・二年生の人数が少ないというところもあり、今まで以上に頑張らないといけないと思い、焦りました。でも、そんな私に感謝してくれたみんなに本当に感謝しています。ありがとうございました。

母より

家庭部で学んだことは、これから先の生活に必ず役に立つものだと思います。そして、部長としての経験においては仲間の協力と絆のもと成長できたことがうれしく思います。残り少ない部活動を仲間感謝しながら、最後までしっかりと頑張ってください。



囲碁将棋部

「囲碁将棋部に入学して」

部長 下道 裕太

僕が囲碁将棋部に入ったときは、それまで将棋を指したことが無くルールすら知りませんでした。初めの頃は全然勝てず、楽しさはありませんでした。しかし将棋を続けていくうちに局面を判断する力が次第についていったことにより、楽しさを感じる場面が増えていきました。そうしていくうちに、他の部員にも勝つことができるようになり、今ではハンデをつけても勝てるようになりました。初めのころと比べると棋力は飛躍的に向上しました。この経験を将棋だけでなく他のことにも生かせるように最大限努力します。

母より

これまで将棋をしていた姿など見た事はありませんでした。初めての大会ですぐに負けましたが、少しずつ上手くなり、勝つ事が多くなりました。負けて悔しかった事、勉強すればそれが力になる事、とても素晴らしい経験ができたと思います。これからも応援しています。



美術部

「部長という立場」

部長 佐藤 結菜

私は美術部の部長になった理由は二年生の壁面の時に部長という立場をすめられたからでした。でもいざ、その立場になった時、正直不安でいっぱいでした。私は部長と言えるような行動を行えたと自信が持てませんでした。だから何度も悩んだし、途中あきらめそうになった時でもたくさんありました。だけど近くに支えてくれる人たちがいたから私は精いっぱい頑張れたと思います。短い間だったけど、今までついてきてくれた部員みんな、本当にありがとうございました。私は美術部で良かったと思います。

母より

先輩から部長を勧められ部長になり大変驚きました。部長としての悩みや苦労、大変な事が沢山ありましたが、でも、良い仲間が支えてくれたお陰で乗り越える事ができたと思います。また仲間と一緒に、力を合わせて制作する喜びや感動も味わう事ができたと思います。

これからも部活動で得た貴重な経験を生かし、周囲の皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。応援しています。

